

新市誕生から20年
広がる、深める郷土のあゆみ

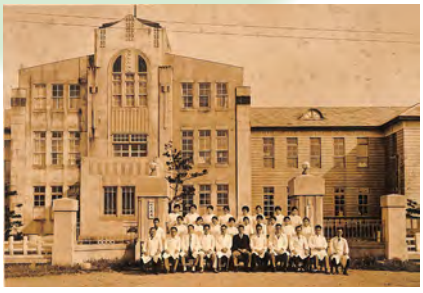
新市誕生から20年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。
問合先　総務課市史資料室（北村支所内）☎56-2001

第９回　医療のあゆみ、寄り添う医療従事者への感謝

気候や自然に影響され、暮らしが安定しなかった時代は衛生知識が低く、腸チフスや赤痢などの伝染病も毎年のように発生していたため、役場の衛生係は、地域の衛生組合の協力を得て警察と共に防疫に当たりました。

岩見沢村では明治21年から村医が置かれ、大正期にかけて開業医も増加していきました。また、栗沢村では明治28年に、北村では明治39年に診療所がそれぞれ開設され、美流渡、万字、東幌内、朝日などの各炭鉱や岩見沢駅など職場単位にも診療所が順次開設されました。昭和２年、岩見沢町では北海道帝国大学医学部の協力を得て町立病院を開院し、経済的に安定しない町民でも負担能力に応じた医療費で受診できる環境を整えました。このように医療を受けられる場や、医療費の負担を支える仕組みも整備され、昭和15年からは各地域に健康保険組合も設立されましたが、戦局の悪化に伴い、運営は長続きしませんでした。昭和19年に誕生した岩見沢保健所では、保健婦が地域を巡回し、結核予防や乳幼児相談などの保健活動が進められました。また、昭和20年代までの冬季の訪問診療は、自動車が普及しておらず、除雪体制も整っていなかったため、医師は患者家庭が手配した馬そりを使い往診しました。こうした厳しい環境下でも患者に寄り添う医療は、心から感謝されました。

昭和30年代から40年代には、医師会が急病患者のための休日当番制や夜間急病センターを整備し、また、人口減少が進んだ美流渡・万字地域では開業医が地域医療を担いました。昭和50年代になると、医療技術が進歩する一方、市民の健康づくりに対する関心も高まり、健康講座や健康まつりなどの活動が始まりました。このように、地域医療は医療に携わる様々な人の尽力や私たち自身の健康に対する意識の高まりと、患者に寄り添い診療に当たる医療従事者への感謝の気持ちが支えてきました。



開院当時の岩見澤町立病院
（昭和２年頃）

キラリ　その瞬間

市内のできごとをお伝えします！



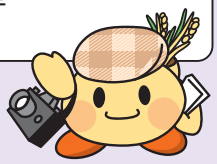
11月２日㈪　サケの特別採捕見学会
第一小学校２年生

人の動き

住民基本台帳（令和８年10月31日現在）

人口	男	33,504人	（前月比－27）
	女	38,187人	（前月比－87）
	総数	71,691人	（前月比－114）
うち外国人		592人	（前月比－1）
世帯数		39,891世帯	（前月比－44）

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Ｅメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）、総務部秘書課広報室へお願いします



岩見沢市役所
〒068-8686　北海道岩見沢市鳩が丘１丁目１番１号
☎0126-23-4111（代表）　FAX 0126-23-9977

ホームページ　X（旧Twitter）　Facebook　Instagram　LINE

北村温泉ホテル





広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか
募集枠数　各号２枠（申込多数の場合は抽選）
掲載料　各号１枠22,000円
申込期限　掲載希望号の３カ月前の月末（３月号に掲載希望の場合は１月４日㈪までに申し込み）
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください
ID：14518

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。